ひ・ら・ん・ぼ ８９-1（２０２０春）
ひらかた市民活動支援センター広報紙 第89号

ひらん・ぼ

2/1（土）開催 令和元年度 中学生ディスカッション

令和元年度の中学生ディスカッションは、枚方市内の10校54人が集まって開催されました。

今回は、まず、オリエンテーション「SDGs de 地方創生」カードゲームを実施することで、より広く枚方市や自分のまちのことを考えるきっかけとなりました。

その後のディスカッションでは、オリエンテーションで見つかった課題などをもとに、枚方のまちをどうすればよくできるか、魅力をどう伝えるか、といった議論が繰り広げられました。各班から、中学生ならではの発想による提案が多く、枚方の将来が楽しみになる発表もされました。

「オリジナルのアプリを作って枚方をアピールする」、「子どもを主役にした祭りをする」など、中学生の自分たちでもできる内容の提案や、行政には税金を大事に使ってほしいなどの提案もありました。

これからの学校生活や、地域でも、中学生にできること、がんばれることに、どんどん挑戦し、実践していってほしいと思います。

12/13・20 1/24・31（金）開催 NPO・市民活動のための超初心者向けSNS講座

Facebook
Instagram

気になっているけど、なかなか始められない。アプリは入れているけど使ったことがない。という団体の皆さん向けに、昨年12月に「初めてのフェイスブック」「初めてのインスタグラム」を開催しました。アプリをスマホにダウンロードするところからの方もいて、なかなか難航する方も多かったです。講師のNPO法人やさしいデザインの宮嶋健人さんが、とても丁寧に、参加者に寄り添う形で進めていただいたので、何とか自分のアカウントを作ったり、団体のページを作るところまで進められました。

1月には、おさらいも兼ねて、実践編も行いました。ほとんどの方がお正月の過ごし方など、何かしら投稿にチャレンジしており、参加者同士もフォローし合ったり、つながりができてきたのがうれしいところです。

次はツイッターや、ホームページ作成に挑戦したいという声もあり、引き続き、SNSだけでなく、WEB全般に関する講座を開催していきたいと思っています。（文／重村　雅世）

サプリ村野学校

2020年3月以降は、新型コロナ感染拡大防止対策のため、サプリ村野の利用中止によって、サプリ村野学校の開催ができませんでした。しかしながら、2019年度のサプリ村野学校は、58講座を開催し、のべ525人の参加がありました。

2020年度は、団体の会員増加、活動の拡大の一助になるよう、また積極的にサプリ村野を拠点として活動できる団体を増やしていけるように運営していきたいと思っています。

お知らせ

★「サプリ村野学校」
形式を変えて順次実施予定。

★「ひらかた防災学校」
6月14日(日)は中止。
形式を変えて実施予定。

★「ひらかたNPOフェスタ」
9月27日(日)は中止。
形式を変えて実施検討中。

4月末に、9月30日までに開催する予定だった枚方市主催・共催等の各種イベントについて、原則として中止、または10月1日以降に延期することが発表されました。

つきましては、当センター実施予定のイベントや講座も中止および延期します。今後は、それぞれ、オンラインを使ったり、新しいアプローチで実施していく予定です。皆さまからのアイデア・提案も募集中です。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

団体の情報発信

コロナ禍のこの時期に、動画やオンラインを使って団体活動の発信や、お役立ち情報を伝えている団体があります。

ひらかた市民活動支援センターでは、皆さんの団体の動画配信等の支援を行っていきます。

詳しくは以下のページからご確認ください。
http://hirakatanpo-c.net/support/info_business/dantai-info

効果的な広報活動とは？

インターン企画 NEWS

私は、大学一回生の時に立ち上げたサッカーサークルの活動周知のための広報活動を、日頃からどのように行えばいいかと考えていました。

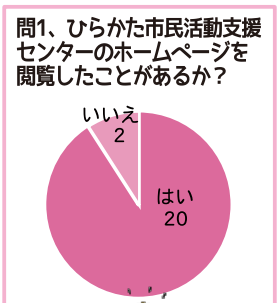
今回、ひらかた市民活動支援センターでインターン活動をするにあたり、課題の一つに「人材不足」があることを聞き、解決策として「広報」に着目し、最も効果的な広報手段は何かということについて調べることにしました。

さまざまな広報媒体

調べてみると、情報を届けたい対象によって、手段を選ぶべきであるということがわかりました。例えば、10代にはInstagram、30代にはFacebookというような。しかし、私は手軽に取り組めて、なおかつ、持続性のある広報手段でないと、長期間活動する団体では意味がないと考えました。

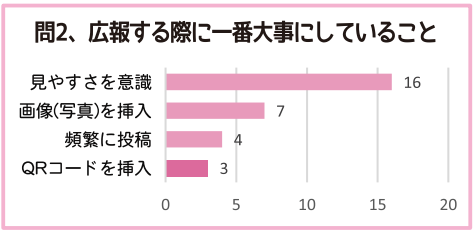
そこで、ひらかた市民活動支援センターの登録団体に協力をお願いして、アンケート調査を行いました。22団体から、回答をいただき、さまざまな情報を得ることができました。

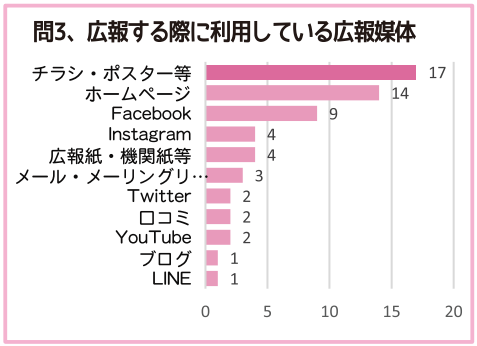
まず、問1の回答からは、ひらかた市民活動支援センターのホームページが概ね認知されていることがわかりました。



次に、問2の「広報する際に一番大事にしていること」という問いの選択肢は全て、手軽に取り組めて、かつ影響力が大きく変わるものにすることで、最も回答の少なかったものが課題として浮き彫りになるということを仮定して設けました。すると、一番少なかったのは、「QRコードを添付」でした。スマホではお馴染みになっていますが、まだまだQRコードが活用されていないことがわかりました。

最後に問3の回答では、一番多く利用している広報媒体は「チラシ・ポスター」でした。確かにチラシ・ポスターは手軽で持続性のあるものなので、とても納得できました。その他の回答にも機関紙や広報誌などがあり、まだまだ紙面による広報を行う団体が多いことも実感しました。





対象に合わせた広報手段

以上のアンケート結果をもとに、ひらかた市民活動支援センターのボランティア募集のチラシを作成してみることにしました。多くの団体が活用していないQRコードを入れたり、画像を多く挿入したりと、見やすさを意識してみました。

実際やってみると、必要な情報をコンパクトにまとめることの難しさを感じました。今回は研修期間の都合上、このチラシの効果の程を知ることができないのですが、他の広報媒体でも検証をしてみたかったです。

今回の活動を通して、自分のサークルでは、対象者に合わせて使用する媒体を選択し、かつそれを持続させることを実現できるように広報活動に取り組んでいこうと思います。

柴田 皐司
（龍谷大学1回生）

インターン活動に参加することで、自分の中で取り組もうと考えていた課題の解決にとても近づけました。私の課題は最も影響力のある広報活動は何かということでしたが、約200のボランティア団体にアンケート調査を取ることで貴重なデータを得ることができ、それがとても課題解決につながりました。

その他、イベントへの参加やインタビューなど、濃い体験をさせていただきました。普段できない知識や経験を得れたので、インターンシップに参加してよかったなと思います。この経験を活かし、サークルでの広報活動だけでなく、もっと先の将来にも活かしていきたいと思います。

地域をつなぐ子ども食堂

インターン企画

最近、よくテレビでも報道される「子ども食堂」について、全く知識がなかったので、「ちいさいほいくえんみんなの里」でお話を聞きました。

さまざまな子ども食堂

枚方市には現在約20以上の子ども食堂が存在しており、それぞれ運営している母体が違うそうです。保育園が母体の場合、親子での参加が多く、普段は忙しくて交流の少ない親同士が仲良くなれるきっかけになるそうです。また、老人ホームが母体の場合は、多世代交流の場になり子どもたちに社会性が身に付いたり、集会所が母体の場合は、学習支援ができたりと母体は違ってもそれぞれにメリットがあることがわかりました。

地域のあたたかい支援

子ども食堂は、ほとんどが0円なのに、なぜ運営が成り立っているのか。その裏には地域の方々や企業などの温かい支援があります。みんなの里で使う食材は、食料店約20店舗の協力のもとに安く仕入れられた肉や米、商店街の人たちから提供していただいた野菜、生協おおさかパルコープからのデザートなどの差し入れが使われているそうです。

また、2017年には、くずはシティファームの一角を利用して「もくもく・ワン・ファーム」という畑をオープンさせ野菜作りを行っており、食べるだけでなく、野菜作りができるのは、子どもにとって、農業について知るいい機会でもあり、良い取り組みだと思いました。このような取り組みは、地域の大人とのつながりも増え、まさに地域で子育てを見守ることにつながると思いました。

これからの課題

一見、子ども食堂にはメリットしかないように思いますが、実際にはボランティアや食材の確保の難しさ、認知度の低さ、今の状態をどうキープしていくかのビジョンが未定など、たくさん課題があるようです。ですが、仕事の忙しい親を想って子どもにお昼ご飯を無償で提供している料亭や、お寺を開放して子ども食堂を行っているところをテレビで見たことがあるのですが、メディアを通して取り上げてもらうことで、たくさんの人の目に留まり、もっと多くの関心が得られると思いました。それによって全国各地に地域の拠り所が増え、地域で助け合おうという温かい想いを持ったボランティアが集まってくるといいなと思います。私自身も、自分の地域の子ども食堂について調べて、ボランティアとして参加したいと思います。

今回、お話を聞かせていただいて、なんとなく聞いていた子ども食堂について、詳しく知ることができました。「子ども食堂は家庭に問題を抱えている人たちが行くところ」。多くの人が子ども食堂に対して、このようなイメージを持っているだろうし、私もそう思っていました。しかし、お話を聞くうちに、今まで抱いていたイメージがなくなりました。子ども食堂は、いつでも、誰でも利用できる地域の人々の居場所になっていて、地域と人、人と人をつなぐ、とても大切な場所だということがわかりました。

森川 未夢
(龍谷大学1回生)

「普段経験しないことをしたい!」そんな思いで、地域社会の現状を自らの取材や見学を通して知ることができるインターンシップに参加しました。特に私が最も興味を持っていた子ども食堂にインタビューをさせていただき、子ども食堂の実態を知ることができたり、今まで抱いていた子ども食堂に対するイメージが変わったりと、以前よりも地域社会に関心を持つきっかけになりました。また、ボランティアを呼びかけるチラシ作りでは見る人のことを考えてデザインするのがとても難しかったです。普段パソコンを触ることが、ほとんどなかったので、今回の活動を通して少しパソコンスキルが上がったような気がします。このインターンで得られた関心を今後に活かせるように頑張りたいです。

子育て目線からのまちづくり

インターン企画

現在、日本が抱える大きな問題の一つが少子高齢化です。この問題は、それぞれの地域における「まちづくり」にも直結すると思います。少子高齢化が進む今だからこそ、今回、「子育て」に着目し、より良いまちづくりとは何か？という観点で、お話を聞いてみました。

枚方市の子育ての現状

枚方市には、未就学児の親子を対象とした施設が13箇所あります。その中の一つ「広場さぷり」はサプリ村野内にあり、おもちゃや絵本など、子どもが楽しめるだけでなく、お母さん同士の情報交換の場にもなっています。

職員の方にお話を伺うと、枚方市の子育てしやすいところは、都会過ぎず田舎過ぎずなので住みやすく、公団住宅や団地が多いので、友だちを作りやすい環境が整っていることだそうです。逆に子育てしづらいところは、地域によっては渋滞が多かったり、同じ枚方市でも子育て施設が少ない地域があるところだそうです。

そこで、この現状を良くしていくために、どのようなまちづくりを目指すべきかを考える必要があると思いました。

まちづくりとは何か

枚方市のまちづくりを考える上で、枚方市のことを昔からよく知っている方に話を聞きたいと思い、枚方市の情報紙を月刊で発行し続けているＬＩＰ編集局の渡辺さんにお話を伺いました。

ＬＩＰとは、枚方市民発の福祉・教育・文化・環境・ボランティアなどの情報を掲載する月刊の地域情報紙です。渡辺さんがＬＩＰに携わるようになったのは15年前のこと。渡辺さんがお子さんを保育所に預けていた当時、保護者同士の交流や横のつながりが薄いと感じ、親御さんたちとメーリングリストを作ったそうです。その中で出てきた親のさまざま意見を発信し、さらに多くの人と共有できる場として、紙ベースの情報紙を作ろうと思ったのが出発点だそうです。

渡辺さんが考えるまちづくりとは、人と人とのつながりをどう作っていくかだそうです。若いころに出会った人とのつながりや、大人になってできたつながりなど、さまざまなつながりがあると思います。そのつながりを絶やすことなく、どんな形でも続けていくことで、自ずと地域のつながりが増え、まちづくりにつながっていくのではないかと思いました。

子育て目線からのまちづくりを実現するために、どうすればよいか。現代は、男性でも子育てに深く関わるべきだと思いますが、まだまだ女性が子育てを行うのが当たり前という風潮があるのが現実です。子育て環境が良いまちは、良いまちづくりができるのだと思います。良いまちづくりは、女性も男性も関係なく地域みんなで力を合わせ、できる人ができない人部分を補い合う、そんな人と人とのつながりを作っていくことが大切なのだと思いました。

井川　梨久
（大阪経済大学2回生）

大学生活もあと二年となり、半分が経過したのにも関わらず、自分が何をやってきたのかと自信を持って言えることがなく、自分自身の成長につながればと思い、インターンシップに参加しました。ひらかた市民活動支援センターでは、さまざまな団体へのインタビューやイベントの参加を通して、枚方市の取り組み、子育ての現状などを肌で感じることができました。私の出身地、岡山県の地元では、まだまだまちづくりが進んでいるとはとても言えません。今回の活動で得たまちづくりに対する考えや知識を地元の発展につなげていければと思います。普段の生活では、経験することができない貴重な体験で得たことを自分の一つの強みとして、残りの大学生活を充実したものにしようと思います。

えん・とも ニュース

コロナ禍の中、災害が起きたら？

新型コロナウイルスの感染拡大していても、災害は待ってくれません。特にこれからは台風や大雨など出水期を迎えるので、今から災害時の避難方法や備えについて考えて確認しておきましょう。

★「自宅」避難の場合

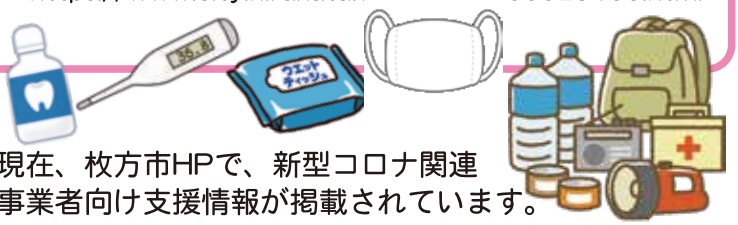
大雨などで被害を受ける可能性が低い場合は、自宅で避難できる方がよいです。できるだけ２階以上の場所に生活圏を移動し、貴重品や家電など大事なものを移動しておきましょう。

買い物なども、行ける時に少しずつ食料や水など、備蓄しておくことも必要です。直接人と会うこと話すことがあまりできない今こそ、電話やメール、LINEなどで、年配の人や気になる人に連絡し、安否確認をし合いましょう。家族が揃っている今だから、今から話し合っておきましょう。**3密避けて連絡は密に！**

★「避難所」に避難する場合

自宅が危険な場合は、避難所に行く必要があります。その場合、水や常備薬などの他に、マスクやウェットティッシュ、体温計を持っていくとよいです。口内を不潔にしておくと感染症にもかかりやすくなるので、マウスウォッシュなども非常持出袋に入れておきましょう。避難所はすぐに物がそろっているわけではないので、必ず自分で準備して持っていきましょう。

（参考）「避難する前にご確認を ～避難所での新型コロナウイルス感染症を防ぐために～」（枚方市）
https://www.city.hirakata.[illegible]00029166.html



現在、枚方市HPで、新型コロナ関連の事業者向け支援情報が掲載されています。
https://www.city.hirakata.osaka.jp/category/1-12-10-0-0.html

NPO、市民活動の団体活動について、ご相談・お問合せは、ひらかた市民活動支援センターまで。
TEL：072-805-3537 ／ FAX：072-805-3532
Eメール：info@hirakatanpo-c.net

編集後記

2020年の年明けには、こんなことになるとは思わなかった。そんな人の気の緩みが、ここまで状況を悪化させていったような気がする。ただし、動かないことで、いろいろ整理できたような気がする。

仕事がなくなったり、給料が減額になったり、収益が下がったり、学童保育や病院、介護の現場は疲弊しており、いろいろ課題が出てきているが、「ピンチはチャンス」。自分の身の周りはもちろん、普段はあまり関心のない政治や環境についての課題を整理して、考える良い機会になるといいと思う。（編集者・S）

イラストだより

ハンガリーの首都ブダペストは、ドナウの真珠と謳われる美しい街です。ウイーンに滞在している時に、バスで日帰り旅行をしました。

通貨のフォリントはここだけしか使えないので、数千円分だけ両替し、まずブダ地区にある王宮を見学。次に世界で３番目に古い地下鉄で下町のペスト地区を散策します。

帰りのバスを待つ間、小さなレストランに入りました。言葉が通じないのであり金をぜんぶテーブルの上に置き、これだけで食べさせてほしいとジェスチャーで伝えたところ、よほど貧乏な旅行者と思ったのか、ウェイターがかなりサービスしてくれました。ラッキー！

（イラスト・文／向井　範雄）

【編集・発行】
特定非営利活動法人 ひらかた市民活動支援センター
〒 573-0042
大阪府枚方市村野西町5-1サプリ村野内
TEL：072-805-3537 ／ FAX：072-805-3532
Eメール：info@hirakatanpo-c.net
http://www.hirakatanpo-c.net/

ひらかた市民活動支援センター公式インスタ
@hiracen_info
特定非営利活動法人ひらかた市民活動支援センター
@hiracen
ひらせん(ひらかた市民活動支援センター)
@hiracen_info